

平成29年度

産業観光常任委員会
行政視察報告書

平成29年7月5日（水）～ 7月7日（金）

山形県 米沢市
岩手県 花巻市
岩手県 二戸市



日光市議会

産業観光常任委員会行政視察 結果報告書

平成29年9月7日

| | | | |
|---------------|-----------|------------|-------|
| 産業観光 常任委員会 | 委員長 川村 寿利 | 副委員長 斎藤 信夫 | |
| | 青田 兆史 | 斎藤 敏夫 | 山越 一治 |

◆視察項目

| | | | |
|-----------|--------------------------------------|--|--|
| 実施年月日 | 平成29年7月5日（水） ～ 7月7日（金） | | |
| 視 察 目 的 | 1. 観光振興の取り組みについて (米沢市観光振興計画（第3期）) | 山形県米沢市 | |
| | 2. 木質系バイオマス発電事業について | 岩手県花巻市 (株)花巻バイオマスエナジー | |
| | 3. 産業を支え地域を守る“人財”の育成・確保 の取り組みについて | 岩手県二戸市 | |
| 視 察 先 要 概 | 山形県 米沢市 | <p>*人 口： <u>86,010</u> 人 *面 積： <u>548.51</u> km²</p> <p>*特 徴： 県の南部、米沢盆地に位置し、福島県に接する。直江兼続が現在のまちの基礎を築き、上杉鷹山で知られる上杉家の城下町として栄え、当時の佇まいを残す。若者の移住定住を促進する制度を創出し、地域経済活性化による雇用の確保を図る。特に有機エレクトロニクス関連分野では様々な研究が行われ、山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンターや蓄電デバイス開発研究センターが整備され、世界中から研究者や企業が集まる開発拠点に成長。</p> | |
| | 岩手県 花巻市 | <p>*人 口： <u>97,771</u> 人 *面 積： <u>908.39</u> km²</p> <p>*特 徴： 県のほぼ中央に位置し、西に奥羽山脈、東には北上高地の山並みが連なる。いわて花巻空港や東北新幹線新花巻駅、東北縦貫及び横断自動車道の4つのICを有する広域交通の要衝。2006(平成18)年1月に大迫町・石鳥谷町・東和町と合併、人口10万人超の新「花巻市」となる。</p> | |
| | 岩手県 二戸市 | <p>*人 口： <u>27,637</u> 人 *面 積： <u>420.42</u> km²</p> <p>*特 徴： 県内陸部北端に位置し、山地・丘陵地が約9割を占め、古くは南部藩の城下町であった。近年は首都圏での漆関連イベントを展開、2013(平成25)年度からは漆をメインとした海外でのプロモーションも始動。市民や市内事業者の新しい挑戦支援する事業を立ち上げ、オール二戸で前進したまちづくりを推奨する。北東北交流圏やイチ(一関)ニ(二戸)のサン(三沢)プロジェクトなど、他県他市との連携を強化し、交流人口増進を図る。</p> | |

◆視察結果（個別票）

| | | | | |
|------|---------------------------------------|--------|------|--------------------------------|
| 個別項目 | 観光振興の取り組みについて（米沢市観光振興計画(第3期)）【山形県米沢市】 | | | |
| | 視察先担当課 | 産業部観光課 | 添付資料 | 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 |

I 視察要旨

当市の宿泊客の増大に向け、米沢市の先人たちによる豊かな歴史や伝統と文化、はっきりとした四季が織りなす豊かな自然や市内各所に湧き出す温泉等の観光資源、東京から山形新幹線で約2時間の好アクセス等の強みを生かし、独自の取り組みをしている米沢市観光振興計画（第3期）について視察しました。

II 事業の成果・課題

■策定の目的について

現在の観光は、単に旅行やビジネス等で訪れるだけではなく、趣味や嗜好^{しこう}、医療や健康、農業体験など、個々の多様なニーズに応じて自らが企画する個人または小グループ型の観光へも裾野を広げており、自己の欲求を満たすことに対して我慢せず、価格や場所等にもとらわれずに「よりよいもの」を求める傾向を示しています。

全国のいたるところで地域の様々な観光素材を活用した体験や、交流を中心とした着地型観光の推進が図られ、観光客の誘致合戦が繰り広げられている事から、国内の数ある観光地の中から米沢市へ訪れていただくために、米沢市の地域ブランドの磨き上げや受入態勢を整え、「より選ばれる観光地・米沢」を目指していくことが必要とされています。

そのためには、行政や観光事業者だけではなく、市民一人ひとりの普段の暮らしや何気ない心遣いが、米沢市の魅力をより一層向上させるものと考え、米沢市が一丸となって観光まちづくりに取り組むための指針として策定されました。

■観光客の増大に向けた取り組みについて

温泉地への観光入込客数については、平成に入った頃で約60万人前後でしたが、

その後の大型ホテルやスキー場の廃業、また、東日本大震災の影響もあり、減少の一途をたどる事になりました。

◎市内の宿泊施設の収容定員について

温泉宿（合計：旅館 25 軒、収容定員 1, 544 人）

その他の旅館、ホテルで 19 軒、収容定員 1, 376 人

平成 23 年 3 月の東日本大震災後に「米沢を元気にしたい」という思いから八つの温泉・24 軒の宿が立ち上がり、温泉米沢八湯会が結成されました。

◎独自の取り組み

- ・米沢八湯をイメージした駅弁「米沢八湯湯めぐり弁当(愛の膳・義の膳)」の販売
(平成 25 年から)

温泉米沢八湯会、JR 米沢駅、駅弁日本一に輝いた「牛肉どまんなか」の新杵屋とのコラボレーション。各宿での宿泊時にサービスが受けられる「宿泊おもてなし切符」つき。

- ・米沢八湯スタンプラリー

24 軒の回遊性を高めるため全八湯制覇、3～7 カ所、2 カ所ごとに賞を設定。

(平成 28 年の応募者数 540 人)

- ・ご縁を繋ぐ「米沢八湯御朱湯印帳」制作

(平成 28 年から)

各温泉地でオリジナルの朱印（スタンプ）を押印する「御朱湯印帳」を作成し希望するお客様に配布。

■成果と課題について【強み・弱み・機会・脅威】

◆成果

伊達氏や上杉氏、現在のまちの原型を築いた直江兼続に代表される先人たちによる「上杉の城下町米沢」としての豊かな歴史や伝統と文化、西吾妻山など四方を山々に囲まれた置賜盆地や、はっきりとした四季が織りなす豊かな自然や市内各所に湧き出す温泉等の観光資源、また、東京から山形新幹線で約 2 時間という日帰り圏内でもある好アクセス等が強みとなっています。

◆課題

上杉氏、直江兼続、前田慶次等に関連する歴史的遺産、四季のまつり等に依存した観光誘客であり、マンネリ化しているとのことです。

移動手段としては、米沢駅から市内各所へは、タクシーや自家用車主流で二次交通の充実が必要であること、徒歩や自転車等で移動できる範囲に観光施設等が少ない等が挙げられています。

また、大雪等の自然災害時に発生する山形新幹線の不通や道路状況による交通障害と影響なども弱みとなっています。

設備面では、大規模コンベンションの際に宿泊キャパシティが不足してしまうことや、バリアフリー設備が整っている施設の不足などがあります。

旅行代理店等への営業不足、インバウンドに対して、観光関係者と市民が共に不慣れであることなども課題として挙げられています。

■今後の推進に向けた取り組みについて

東北中央自動車道開通後の誘客促進（福島～米沢北間無料）、重点道の駅「(仮称)道の駅よねざわ」を拠点とした誘客促進ゲートウェイ機能を持った総合観光案内所の設置、本市、置賜地域、県全域への周遊促進。まち歩き観光促進（滞在時間の延長）などが挙げられています。

Ⅲ 視察所見

日光市では、強みである観光資源を最大限活用すれば、来訪者を満足させる事が出来ると考え、更なる宿泊客数の増大に期待が出来ると思います。

特に日光地区では、宿泊施設の増加、また、2020年夏季オリンピック・パラリンピック東京大会の決定により、外国人宿泊客の増加を想定し、快適で円滑な移動や滞在のためにICT利用環境の整備を更に進めることが必要であると考えます。

日光市への来訪者が満足して帰り、リピーターとなってまた来訪し、宿泊客の増加につながるよう期待します。

◆視察結果（個別票）

| | | | | |
|------|-------------------------------|----------------|------|--------------------------------|
| 個別項目 | 木質系バイオマス発電事業について【岩手県花巻市：現地視察】 | | | |
| | 視察先担当課 | (株)花巻バイオマスエナジー | 添付資料 | 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 |

I 視察要旨

平成 29 年 2 月 1 日より、売電を開始したタケエイグループの木質バイオマス発電事業第 2 号となる「花巻バイオマスエナジー花巻発電所」を視察しました。

その概要は別紙のとおりです。

II 事業の成果・課題

当発電所で使用されている燃料は、主に地元の間伐材のほか、アカマツの松くい虫被害材などです。また、発電された電気は、地元の公共施設や事業者を中心に売電されていて、今後はその排熱を活かした農業ビジネスへの参入も予定されており、いわゆる「電気の地産地消」を目指しています。

本事業スタートにより、雇用の創出による地域の活性化、エネルギーの補完林業の活性化等、地域への波及効果が見込まれ、併せてCO₂の削減効果も見込まれています。

III 視察所見

日光市にとっても、豊かな資源を活用したバイオマス事業による経済の活性化、産業振興を目指す中であって大変参考となるものでした。

そして、この事業を進めるにあたっての大事な要素である、安定的な集材の確保、送電線が近くにあること、安定的な水の確保が求められることからの立地地域の理解と協力はもちろんのこと、自治体・森林組合等の強力な支援が必要であることを認識させられました。

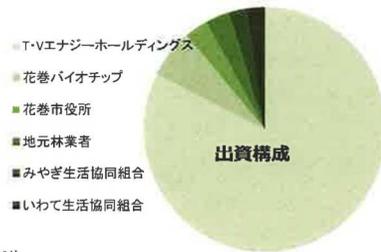
事業体及び事業概要

1. (株)花巻バイオマスエナジー

バイオマス発電事業

総事業費： 32億円【概算】
 資本金： 3.15億円
 運転日数： 330日/年
 稼働時間： 24時間/日
 発電規模： 6,250kW
 送電規模： 5,400kwh
 年間送電量： 約4万MWh/年
 【資本構成】 (14,000世帯分に相当)
 TVHD(82.5%) 花巻バイオチップ(株)(6.4%)
 花巻市役所(3.2%) 地元林業者(3.2%)
 みやぎ生活協同組合(2.4%)いわて生活協同組合(2.4%)

資本金3.15億円

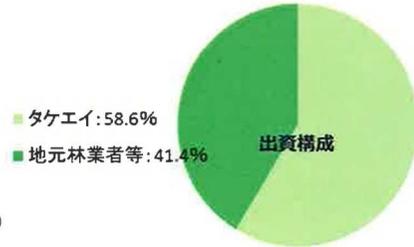


2. 花巻バイオチップ(株)

燃料供給事業

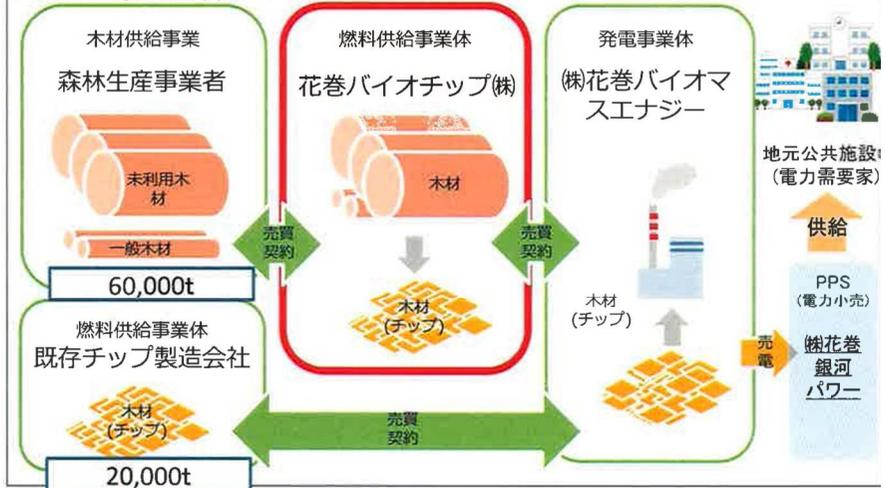
総事業費： 8億円【概算】
 資本金： 87百万円
 稼働日数： 270日/年
 チップ生産能力：約7万t/年
 ※チップー機1台：40t/h
 燃料調達： 原木(6万t) 外部チップ(2万t)
 【事業所】
 ①花巻市大畑第九地割(約40,000㎡)
 発電所とチッププラント併設との合計)
 ②花巻貯木場(事業所敷地内他)約30,000㎡

資本金87百万円



事業スキーム

再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)の活用により20年間以上の木質バイオマス発電事業を行う株式会社花巻バイオマスエナジーを平成26年10月に、発電燃料となる間伐材等の燃料を加工し供給する花巻バイオチップ株式会社を平成27年1月に設立。
 次項のスキーム体制を構築し林業振興・地域の活性化、雇用創出等を図ることで地元貢献できる事業化を目指す。



建設地及び原料調達区域

バイオマス発電プラント
 花巻市大畑第九地割
 チップ工場
 花巻市大畑第九地割

発電プラント・チップ工場/第三貯木場

所在地：岩手県花巻市大畑第九地割
 面積：40,741.15㎡
 用途地域：工業専用地域



波及効果

【新規雇用の創出】

総勢 90名の新規雇用が創出(見込み)

- ①発電所運転員(管理含)
28名(現地採用19名)
- ②燃料加工員(管理含)
13名(現地採用12名)
- ③木質集荷・集材・運搬人員
50名程度

【環境負荷低減】

CO2削減
2.0万トン/年

ボイラー仕様

ボイラー形式：タクマN-1100FH型
 流動層ボイラー
 常用圧力：5.98Mpa
 常用蒸気温度：425℃
 実際蒸発量：28,000kg/h
 使用燃料：木質チップ
 燃料必要量：年間72,000トン(含水40%)
 条件：チップ含水率50%以下

◆視察結果（個別票）

| | | | |
|------|---|--------------------------|--|
| 個別項目 | 産業を支え地域を守る“人財”の育成・確保の取り組みについて 【岩手県二戸市】 | | |
| | 視察先担当課 | 商工観光流通課・漆産業課・ 浄法寺総合支所 | 添付資料 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 |

I 視察要旨

産業を支え地域を守る人材の育成・確保については、当市においても喫緊の課題と捉え、当常任委員会では二戸市の以下3点の事業の概要や現状と課題と今後について視察しました。

- (1) ふるさと企業経営基盤整備事業費補助金について
- (2) にのへ産業フォローアップ事業について
- (3) 漆掻き職人育成事業について

◆二戸市の現状

二戸市は平成18年に二戸市と浄法寺町が合併し、人口31,477人になりましたが、平成27年には27,611人（10年で3,866人減少）まで減少しています。

二戸市の事業所数・従業員の現状と推移は、平成21年1,502か所、平成26年1,402か所で10か所減少している。従業員数は平成22年11,508人、平成26年11,883人で375人増加しています。

事業所数が増加している産業は医療・福祉、学術研究、専門・技術サービス業。情報通信業、事業所数が減少している産業は卸売業、生活関連サービス業娯楽業、建設業です。

また、従業員数が増加している産業は、医療福祉、製造業、学術研究、専門・技術サービス業であり、減少している産業は卸売業、小売業、農林漁業、宿泊業飲食サービス業です。

これらを踏まえ、産業の振興による地域の継続的発展を見据え、平成28年度に新規事業として工場等の新設又は増設を支援。その支援策のひとつに「ふるさと企業経営基盤整備事業費補助金」を新設、また、同じく平成28年度に新事業展開又は既存事業の改善を支援（人件費、設備費、その他事業費）として、「にのへ産業フォロー

アップ事業」を立ち上げています。そして更なる挑戦として、地域企業の課題解決に向けたアドバイザー派遣による企業力の向上を目指しています。

「ふるさと企業経営基盤整備事業費補助金」の平成 28 年度申請件数は 1 件、平成 29 年度は 3 件でした。「このへ産業フォローアップ事業」の平成 28 年度採択事業者数は 5 件あり、他産業（建設業から農業）に参入しているケースもありました。

漆掻き職人育成事業については、文化庁が文化財の修理に国産漆を使用する方針を示したことから、二戸市では千載一遇のチャンスと捉えたが、現在漆掻き職人が手薄のために十分な漆が確保できず、漆の在庫が切れていると聞きました。これまで国内産は高額なことから使用が少なくなるという悪い循環に陥り、漆掻き職人が減少したようです。

二戸市の漆の生産状況は全国生産の 70%の 821 kg であり、国宝・重要文化財の修復に必要な国産漆の需要量は 2.2 t と予測されています。これを確保するための原木は 18 万本本が必要であり、ウルシ原木の必要量は耕作放棄等を利用し、植栽し確保するとのことです。

また、平成 28 年度の職人数は 20 人と少なく 40 人が必要とのこと、その為の対応として全国からの公募や、市内小中学校に出向き漆に興味を持たせ将来の担い手として育成を図る取り組みをしています。

一番興味を持ったのは、地域おこし協力隊を公募する際に「漆掻き職人として自立を目指す人材」を募集する事です。

日光市では採用されてから 1 年余りをかけてやりたい事を見出し、やりたいことが無ければ途中でやめてしまうことが見受けられますが、二戸市では始めから漆掻き職人として自立することを目的に移住する事を期待しているようです。

II 事業の成果・課題

「ふるさと企業経営基盤整備事業費補助金制度」と、「このへ産業フォローアップ事業」の成果としては、更なる挑戦が出来るように、地域企業の課題解決に向けたアドバイザー派遣による企業力の向上を目指す事が可能になることです。

課題としては、これらの制度を利用する企業が少ないことです。また、この制度の認定対象外になった企業の取り扱いについて尋ねたところ、現在までに認定対象外に

なった企業はないとのことでした。

漆掻き職人育成事業の成果として、地域おこし協力隊制度の活用による人材育成では、平成 28 年度 2 名、29 年度に 2 名を二戸市非常勤職員として採用し、漆掻き技術習得等の活動を行い、漆掻き職人として自立を目指しています。また、日本うるし掻き技術保存会と連携した人材育成研修も行っており、その研修を修了した職人は、岩手県浄法寺漆生産組合に 15 名従事しています。

課題については、国産漆の必要量を確保するために必要な 40 人の職人を育成し、一人前として生活できる様にする為の収入など、また、冬場の収入源の確保や仕事の確保がこれらの課題と捉えているようです。

Ⅲ 視察所見

産業の振興による地域の継続的発展は、人口減少が加速する今、様々な効果ある事業を通し、二戸市が変わっていく姿が計画の中に有ると考えます。

また、二戸市は大きな企業が少なく、個性ある特色は漆産業と考え、集中的に力を入れている気がします。浄法寺漆にこだわった「ものづくり」をどの様に展開していくのか今後を注視していきたいと思います。地域おこし協力隊の活用は特質ある取り組みと考えます。

これらを考えると、日光市には多くの産業・観光資源が豊富にあり、まだまだ伸び代があります。その一つに、過疎地における地域おこし協力隊の活用方法は考えるべき時が来たと考えます。

日光市でも地域おこし協力隊の募集をする際、目的を要した募集を考えるべきと提案します。